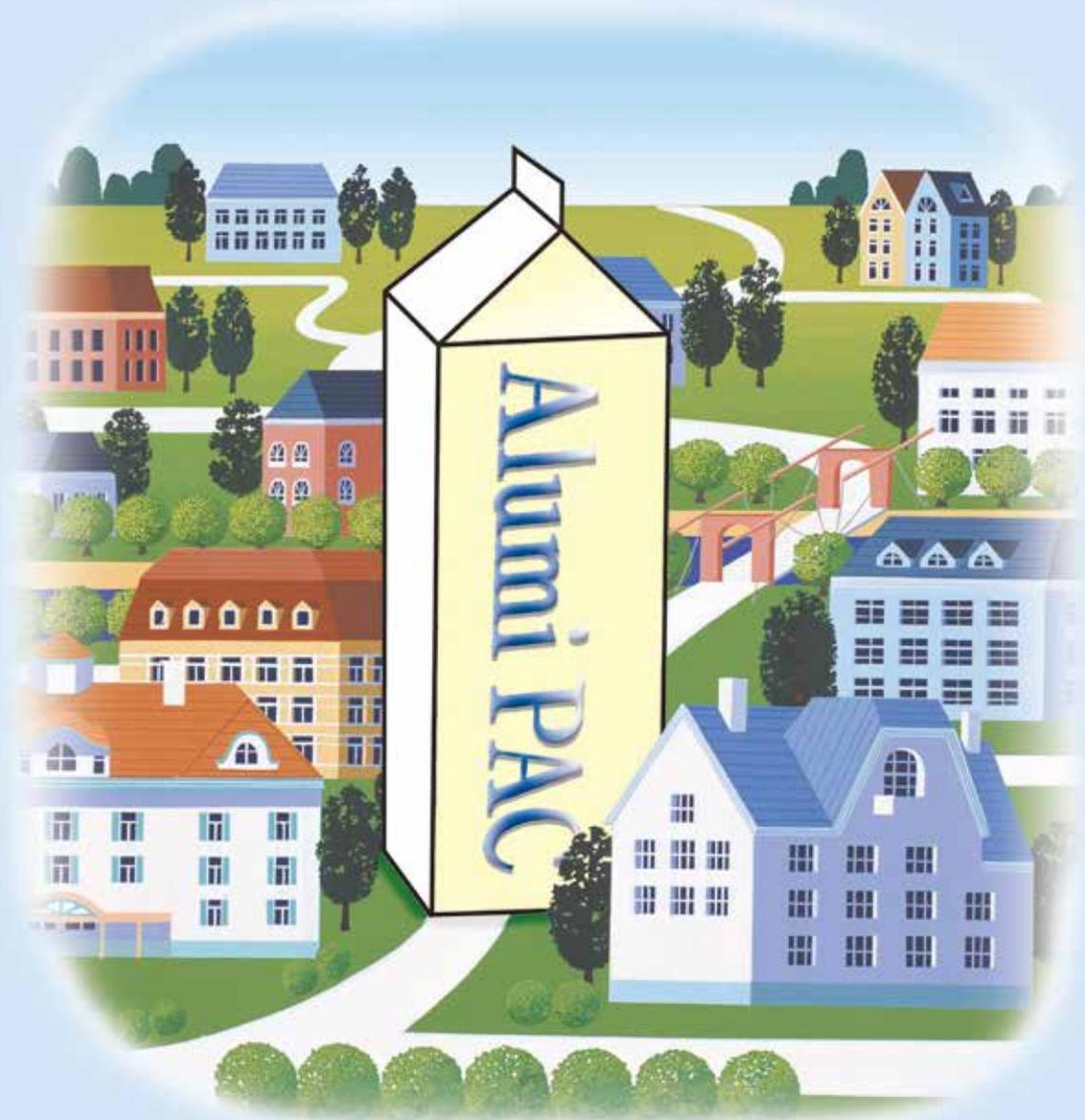


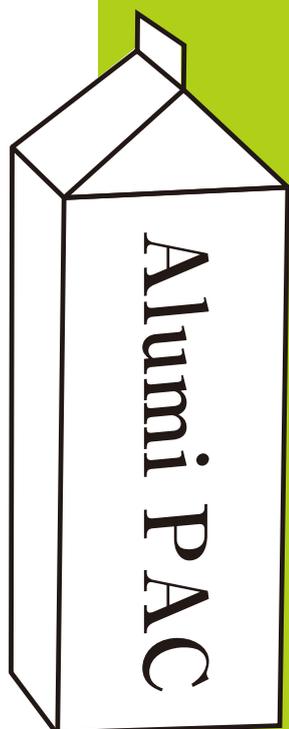
(アルミ付き飲料用紙容器)

アルミパック リサイクル事例集



特定非営利活動法人
集めて使うリサイクル協会

捨てないで！



洗って

開いて

乾かして

そのひと手間が
アルミパックを
ごみから資源に
変えてくれます

も く じ

アルミパックは良質の資源です。	2
<事例1>アルミパックを独自に分別収集し、アルミ箔を剥がしてリサイクル	
長野県茅野市	3
<事例2>福祉作業所がアルミパック回収に協力	
①岐阜県郡上八幡市(ウイングハウス)	4
②岐阜県養老町(養老福祉作業所)	5
<事例3>アルミパックとアルミなし紙パックを混合収集	6
(コラム)アルミパックは生まれ変わっています	6
①北海道千歳市	7
②北海道小樽市	7
③長野県諏訪市	8
④兵庫県相生市	8
<事例4>酒販店による回収を行政が支援	9
東京都小平市	9
<事例5>酒販組合が中心となってアルミパックを回収	10
①静岡県静岡市(静岡小売酒販組合)	11
②大阪府高槻市(高槻酒類調味食品事業協同組合)	11
③兵庫県朝来市・養父市(南但小売酒販組合)	12
(コラム)紙パックは森林資源の副産物	12
④熊本県熊本市(熊本小売酒販組合)	13
⑤宮崎県宮崎市(宮崎小売酒販組合)	13
<事例6>個々の酒店が自主的にアルミパックを回収	14
エコ酒屋分布図	15
酒パックはこうやって回収しよう	16
(コラム)大型のアルミパックは減少傾向	16

アルミパックは良質の資源です。

お酒や焼酎、ジュース、ヨーグルト、豆乳などの紙容器を開いてみると、中に銀色のアルミ箔が貼られているものをよく見かけます。アルミで紙パックの内面をコーティングすることによって、遮光性や断熱性、防湿性を高め、ある程度長期の保存にも耐えられるようにしているのです。

現在、年間**7万5400**トン(2004年)のアルミパックが販売されており、これは紙パック全体の約4分の1を占めている計算になります。

アルミパックは、アルミやポリエチレンなどを剥がせば、牛乳パックと同じ良質な古紙原料となり、トイレトペーパーやティッシュペーパー、板紙製品などに生まれ変わることができます。

しかし、アルミがついていることにより再資源化が難しく、これまで市場に出回ったものはほとんどがごみとして処理されてきました。

容器包装リサイクル法では、アルミパックは「その他紙製容器包装」の1つとして、市町村での分別収集が求められています。しかし、他の雑紙などと一緒にリサイクルに回された場合、せっかくの上質古紙なのにボール紙の中芯のような用途にしか使うことができません。

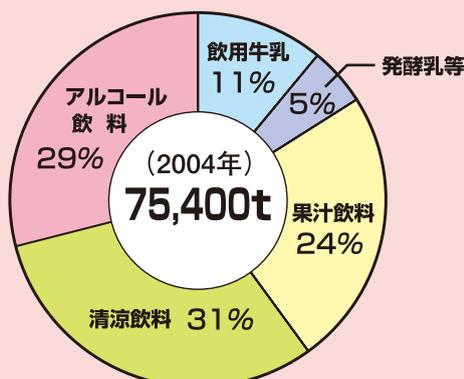
アルミパックは、純パルプに匹敵するほどの強さや柔らかさを持った古紙原料です。

その特質を生かすためには、「その他紙製容器包装」としてではなく、アルミパックとして、あるいは紙パックの仲間として集め、それを再生可能な製紙メーカーへ送るリサイクルルートを作ることが必要です。

幸い、再生紙メーカーの古紙処理技術が向上し、アルミパックを原料として使用できるメーカーもいくつか現れています。そして、自治体や酒販組合・酒販店、福祉作業所などの協力によって、実際にアルミパックをリサイクルしている地域も広がってきつつあります。

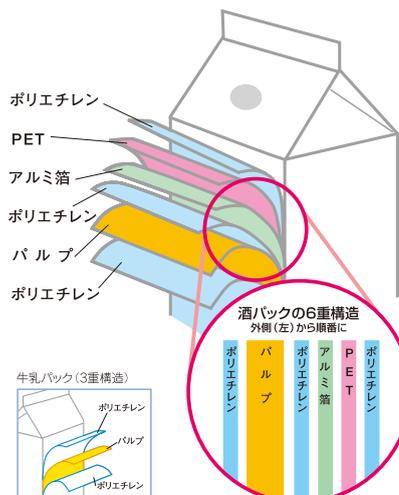
この小冊子では、そんな全国のアルミパック・リサイクル事例を集めてみました。これらの事例を参考に、地域の実情に応じたリサイクルの取り組みが広がれば幸いです。

■アルミパックの用途別内訳



(全国牛乳容器環境協議会調べ)

アルミパックの構造



アルミパックを独自に分別収集

●長野県茅野市●

●茅野市のアルミパックリサイクルの特色

茅野市では、アルミパックを独自に分別収集し、資源物の中間処理を受託している組合が手作業でアルミ箔の部分进行剥がした後、アルミなしの紙パックと一緒にベラーにかけて資源商に売却しています。アルミを剥ぐ手間はかかりますが、こうすることで、アルミなしの紙パックと全く同等の価値が生まれ、上質の古紙原料として他の古紙よりも高い価格で売却することができます。また、作業を行っている茅野市リサイクル事業協同組合は、缶やびんなども含めた資源物の中間処理を一括で受託しており、それらの作業の合間にアルミを剥いでいるので、大きな負担になっているということはありません。

●アルミパック排出のルール

市民には、牛乳パックなどのアルミなし紙パックと同様、洗って開いて乾かしてからリサイクルステーションに出すようお願いしています。牛乳パックの場合は、そのまま資源になるので底の部分がついていても問題ありませんが、アルミパックの場合はアルミを剥がす作業がしやすいよう、①屋根の部分と底の部分は切り取って四角形の形にする、②側面を切り開くときは継ぎ目(貼り合わせている部分)を切るようにする、という2点が大切です。

●アルミパックリサイクルの課題

課題は、まだまだ燃えるごみとして出されているアルミパックが多いのではないかと。牛乳パックよりも丈夫にできているアルミパックは、切り開くにも力が要り、市民の協力を得ることがなかなか難しいようです。それでも、2003年は1,610kg、2004年は1,420kg(アルミを剥いだ後の重量)のアルミパックが回収されました。2002年に各地区で資源物の出し方等に関する説明会を開いてから、回収量が大きく伸びたようで、やはり回収量を増やしていくには市民への地道な啓発活動が不可欠ということがわかります。

茅野市における アルミパックリサイクルのしくみ

各地区のリサイクルステーションの専用袋に、洗って開いて乾かして入れる

(月2回、委託業者が回収)

市の不燃物処理場に搬入

資源物の中間処理を受託している茅野市リサイクル事業協同組合がアルミ箔を剥がす

量がまとまったらアルミなし紙パックと一緒にベラーで圧縮梱包

年に数回、競売にかけて売却(有償)

落札した資源商のルートで製紙メーカーへ

分け方・出し方

紙 類	
新聞紙	雑誌
新聞紙 チラシ	雑誌 空箱・紙筒類
ダンボール	紙(白)
紙(白)	紙(白)
牛乳パック類	紙パック類

●ビニール、金属等を取り除く
●風呂敷こどもで持てる大きさに、十文字に束ねる
●屑で濡れないように

1. 中を洗う
2. 平面に切り開く
3. 乾かす

茅野市発行「家庭版平成18年ごみの出し方」より。紙類はアルミパックも含めて5品目に分けられ、それぞれ専用の袋に入れます。



アルミ箔を剥がしている様子。慣ればそれほど難しくないとのことです。



左側の袋に入っているのは、牛乳パックなどのアルミなし紙パック。アルミを剥いだパックと一緒にベラーにかけられます。

●岐阜県郡上市● (ウイングハウス)

●郡上市におけるアルミパックリサイクルの概要

岐阜県郡上市は、2004年3月に7町村が合併して誕生しました。その7町村のうち、旧八幡町にある小規模授産所「ウイングハウス」では、社会福祉協議会の一員として、行政からの委託を受けて資源回収拠点「八幡エコプラザ」の管理運営に携わっています。同エコプラザには、紙類・缶・びん・ペットボトルなどさまざまな資源物を市民が持ち込んでいます。

その中の1つに紙パックもありますが、ユニークなのは「牛乳パック」と「アルミパック」、「ヨーグルトの紙パック」を別々の回収箱に入れてもらっていることです。

郡上市八幡地区における アルミパックリサイクルのしくみ

八幡エコプラザに市民が持ち込み（毎週火・金・日曜）
アルミパック専用の回収ボックスに投入

ウイングハウスが選別・保管

牛乳パックと一緒に静岡県の
製紙メーカー（信栄製紙（株））へ

トイレトペーパーなどに再生

ウイングハウスは、紙パックの回収及び再生品の販売を通じて障害者の自立支援を図る「リサイクルロンドぎふ」の一員であり、アルミパックの受け入れも可能な再生紙メーカー（静岡県の信栄製紙（株））とのルートがあったため、アルミパックも含めた紙パックの回収・リサイクルが実現しました。

集められた牛乳パック・アルミパック・ヨーグルトの紙パックは、最終的には1つにまとめられて製紙メーカーへ送られますが、異物を取り除いたりする再選別を行う上で、細かく分けて出してもらった方が効率的です。

2006年4月には、1日75トンの処理能力を有するごみ処理施設と、資源物の中間処理・保管を行うリサイクルプラザからなる「郡上クリーンセンター」が稼働します。稼働後は、拠点回収やステーション回収で集められた資源物はリサイクルプラザに集約されるようになりますが、アルミパックのリサイクルについては、当面現状のしくみを維持していく予定です。

地域の
コミュニティが
機能している
山村だから



八幡エコプラザに置かれている回収ボックス。真ん中がアルミパック用で、わかりやすいように実物の見本が、投入口の上に貼り付けられています。



八幡エコプラザ。古紙類から缶・びん・ペットボトル・トレイ・プラスチック・古着など、ありとあらゆる資源物がきめ細かく分別排出されています。牛乳パックやアルミパックも、きれいに洗って開いて乾かした状態で持ち込まれています。地域のコミュニティが機能している山村だからこそ可能なくみと言えます。

●岐阜県養老町● (養老福祉作業所)

●アルミパックリサイクルを始めた経緯

養老町小規模授産所「養老福祉作業所」では、利用者の自立と社会参加に資する作業の一環として、牛乳パックを原料とする手すき製品づくりを行っています。その原料となる牛乳パックは、利用者の保護者らが持ち寄っていますが、まとまった量を集めるのがなかなか大変でした。何かいい方法はないかと保護者に相談したところ、1人の保護者から知り合いの酒造メーカーへ、そして取引のある酒販店へ、酒販組合へと話が伝わり、養老町と上石津町の酒店でつくる養老郡小売酒販組合の加盟酒店が酒パックを回収して、同作業所へ提供することになりました。また、酒造メーカーから出るアルミパックの工場損紙も、同作業所に提供されています。

養老町における アルミパックリサイクルのしくみ

養老郡小売酒販組合の
加盟酒店(52店舗)が、
お客さんから
酒パックを引き取り

町内の
酒造メーカーから
出る工場損紙

ある程度の量が集まったら、養老福祉作業所へ持込

作業所でアルミとポリを剥がし、
溶かして手すき製品の原料として使用

手すきはがきなどに再生



2005年6月24日付中日新聞。
リサイクルと障害者支援の
三石二鳥の取り組みとして
紹介されました。

●この取り組みの意義

養老福祉作業所では、提供されたアルミパックのアルミとポリエチレンのコーティングを手作業で剥がし、手すきはがきや封筒、カレンダーなどを作っています。指導員の中島純子さんによれば、「アルミを剥がすのがちょっと大変だけど、牛乳パックよりも酒パックの方が紙質がいい」とのことです。

酒パックの回収が始まったのは2005年の秋から。回収量はまだそれほど多くありませんが、それぞれの酒屋さんがある程度集まったら作業所まで持ってきてくれるなど、交流が活発化しています。小売酒販組合では、独自にチラシを作成して消費者に協力を呼びかけています。この取り組みによって、酒店及び組合は資源のリサイクルと障害者の仕事づくりに、つまり環境と福祉の両面に貢献していることになり、社会的意義はとても大きいものがあります。

酒パックの
ほうが
牛乳パックより
紙質が
いいですね



手すき製品を作っている作業室と、指導員の中島純子さん。
「できた製品の販売先の拡大が今後の課題」と話しています。



酒パックや牛乳パックを原料として作られている手すき製品。
やわらかな風合いが温もりを感じさせます。

事例 3

アルミパックとアルミなし紙パックを混合収集

製紙メーカー
の受け入れが
整って
きました

アルミパックの受け入れが可能な再生紙メーカーが近くにある地域では、そのメーカーとの協議によって、牛乳パックなどのアルミなし紙パックと一緒に回収することが可能になります。

この方法は、消費者にとってはアルミなしとアルミ付きを区別しないで済むというわかりやすさがあり、また行政側にとっても、アルミパックだけであれば逆有償になってしまうところを、アルミなし紙パックと一緒にすれば有価で売却しやすいというメリットがあります。

言うまでもなく、アルミパックについても牛乳パックと同様に、きちんと「洗って開いて乾かして」という排出ルールを守って出すことが市民には求められます。

アルミパックとアルミなし紙パックを一緒にリサイクルするしくみ（基本パターン）

決められた資源収集の日、市民が資源ステーションや回収拠点に、牛乳パックや酒パックを洗って開いて乾かして出す（酒パックなどについては注ぎ口のキャップ部分はずす）

行政や委託業者の保管場所に運ぶ

選別・保管する
（ペーラーをかけて圧縮梱包することも）

量がある程度まとまったら再生紙メーカーに引き渡す

トイレットペーパーなどに再生

COLUMN

アルミパックは さまざまな製品に生まれ変わっています

アルミパックは、アルミ箔などのコーティング部分を取り除けば、牛乳パックと全く同じ上質のパルプになります。このパルプから、主にトイレットペーパーやティッシュペーパーなどの家庭紙が作られています。また最近では、紙ひも、ファイル、紙箱、ノート（表紙）、うちわなどさまざまな板紙製品が作られるようになっています。





●北海道千歳市●

千歳市では、地元の製紙メーカー（道栄紙業（株））からアルミパックもOKとの連絡があったため、1999年よりアルミなしの紙パックとアルミパックを一緒に収集し、収集を実施している外郭団体を通じて製紙メーカーに売却しています。町内会を対象とした、集団資源回収の形をとっており、売却代金は市の福祉基金に寄付されています。紙パックの回収量は年間26～27トンほどで、その中に占めるアルミパックの割合は、市によると「5%ほどではないか」とのこと。まだまだ燃やせるごみの中に混入しているアルミパックが多いようです。千歳市では2006年5月から家庭ごみを有料化することになっており、「有料化されればごみの中からかなりの部分が資源に回されるのではないかと期待している」との話でした。



千歳市リサイクルセンターのストックヤードに保管されている紙パック。アルミパックはチラホラと見える程度です。出されているものについては、「洗って開いて乾かして」はもちろん、きれいにキャップも外されていました。

まだまだ
ゴミとして
捨てられて
いる現状

●北海道小樽市●

小樽市では2000年度から、アルミなし紙パックとアルミパックを一緒に回収し、資源業者を通じて製紙メーカー（道栄紙業（株））に売却しています。2004年度の紙パック回収量は30,879kgで、その中に占めるアルミパックの割合はわずかに過ぎないそうです。2005年度から家庭ごみの有料化及び分別品目の拡大（4分別から12分別へ）を実施したところ、ごみの量は3割近く減り、資源物の量は9.5倍に増えています。紙パックの回収量も、1月末の段階で前年度を大きく上回っています。ただ、「その他紙製容器包装」の収集も始めたため、そちらの方に紙パックがかなり混じっており、現在は資源業者のストックヤードで選別を行っています。この選別には多くの人手と時間を要しており、市では「紙パックとその他紙製容器包装はリサイクルルートが異なっており、混じると資源にならないので分別排出の徹底を市民に啓発していく必要がある」と話しています。



資源業者で圧縮梱包され、出荷を待つ紙パック。アルミパックはほんのわずか見える程度です。



「その他紙製容器包装」として集められた資源の中にも、アルミパックなどの紙パックが目立ちます。これらは、資源業者において毎日スタッフ総動員で手選別を行っています。「その他紙製容器包装」の中から選別される紙パックは、1日80～100kgにも上ります。

事例 3

アルミパックとアルミなし紙パックを 混合収集

●長野県諏訪市●

諏訪市では、廃棄物事業者を通じてアルミなしとアルミ付きをまとめて引き取ってくれる製紙メーカーがあるという情報を知り、2003年度から混合収集を開始しています。新聞・雑誌・段ボールなどの紙類と同じ日にステーションに出された紙パックを、市の委託業者が収集し、静岡県製の製紙メーカー（信栄製紙（株））に売却しています。2003年度は年間10.1トンが集まりましたが、このうち酒パックの占める割合がどのくらいかは不明とのことです。

市では、「牛乳パックと同じ扱いなので、市民にとってはわかりやすいと思う。ただ、なかには開きにくい酒パックもあるという声を市民から聞くことがある」と話しています。



平成17年度家庭ごみ収集カレンダーより。紙パックについては、「開いて洗い、乾かす」「注ぎ口のキャップははずす」と注意事項を記しています。



市内の資源回収ステーションに出されている紙パック。アルミパックについても、きれいに洗って開いて乾かしてあります。

●兵庫県相生市●

相生市では、1998年から牛乳パックの行政回収をスタートしました。市の収集車でステーション回収したものを、美化センターでストックしておき、月に1回、隣の市にある製紙メーカー（西日本衛材（株））へ持ち込むしくみです。当初は、同社の受け入れ態勢の問題から、アルミパックは燃えるごみとして扱っていましたが、2000年ごろ、同社から「アルミパックの受け入れも可能になった」との連絡を受けたため、牛乳パックと一緒に収集することになりました。

現在、月間平均500kg、年間約6トンの紙パックが回収されており、そのおよそ2割がアルミパックとのことです。したがって、年間約1.2トンのアルミパックが回収されていることとなります。

2004年、分別方法が一部変更となった際に各地区で

メーカーの
能力向上で
混在が可能に



住民説明会を実施し、「酒パックも牛乳パックと一緒にお願い」との旨を再度説明しているため、「酒パックも資源」という認識は市民にある程度浸透しているのではないかとのことです。



相生市美化センターに保管されている紙パック。これは事業系で持ち込まれた分で、酒パックについては開いていないものも見られました。

事例 4

酒販店による回収を行政が支援

●東京都小平市●

小平市では、2003年から酒販店が自主的にアルミパックを回収し、それを市が広報への掲載・情報提供、ストックヤードの提供といった形で支援するという取り組みが行われています。市内の9酒販店が「エコ酒屋宣言!」と題したチラシを作成し、市民にリサイクルへの協力を呼びかけました。市では「ごみと資源の出し方」などの広報資料で、「アルミ付き酒パックはエコ酒屋へ」と呼びかけています。事業者と行政の協働による取り組み事例としては、全国でも先駆けとなる事例です。

ただ、酒パックの回収量はなかなか伸びておらず、回収する酒販店も減少傾向にあるのが大きな課題となっています。



小平市で酒パックを回収しているお店の1つ、モリタヤ酒店。

小平市における アルミパックリサイクルのしくみ

酒販店がお客さんから酒パックを回収

取りまとめ役の酒販店が各店のパックを回収し、
小平市清掃事務所に持ち込み

古紙業者が牛乳パックなどと一緒に引き取り(無償)

製紙メーカーでリサイクル

拠点で回収する資源

市内の小売店や公共施設などの店頭回収ボックスがあります。
※お店がしまっている日や営業時間外には置かないでください。

■牛乳(紙)パック



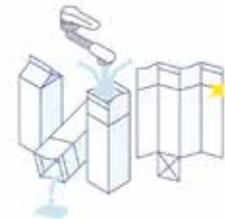
内側をアルミコーティングしていないもので
大きさが500cc以上の紙パック

- ①中身を空にしてすぐ
- ②切り開く
- ③乾かす



←※アルミコーティングされているものは燃えるごみ

※アルミ付き酒パックはエコ酒屋で回収しています。エコ酒屋については、ホームページをご覧ください。ごみ減量対策課までお問合せください。



「私のまちのごみと資源の出し方」より。「アルミ付き酒パックはエコ酒屋で回収しています」と明記しています。

事例 5

酒販組合が中心となってアルミパックを回収

ここにご紹介する5地域では、小売酒販組合が主体的に加盟酒店に呼びかけ、地域全体で酒パックの回収を促進しています。このような取り組みを始めたきっかけはさまざまですが、規制緩和の進展で町のお酒屋さんが厳しい経営を迫られる中、身近な環境問題である酒パックのリサイクルを推進することで地域に貢献しようという思いは同じです。

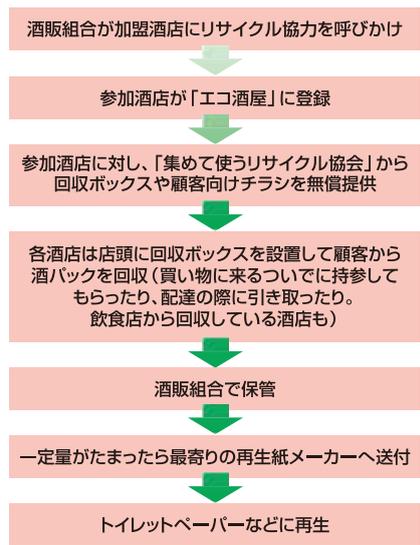
回収に取り組んでいる酒屋さんへのアンケートでも、取り組んでよかったこととして「店の知名度が上がった」「お客さんとのコミュニケーションが増えた」「リサイクルやごみ減量に協力しているということで、自分の店に誇りを持てた」といった回答が多く寄せられました。

2005年10月から2006年2月にかけては、「集めて使うリサイクル協会」2005年度地球環境基金助成事業として、お客さんから酒パックを持参してもらう度にポイントシールを渡し、一定枚数がたまると再生紙トイレトペーパーなどを進呈する酒パックリサイクルキャンペーンを実施しました。

これらの地域では、キャンペーン期間終了後も引き続き酒パック回収を行っており、地道な活動を続けながら少しずつアルミパックリサイクルの輪を広げていく意向です。



酒販組合が中心となって行う 酒パックリサイクルのしくみ (基本パターン)





若い世代に
どう協力して
もらうかが
課題!!

●静岡県静岡市● (静岡小売酒販組合)

静岡小売酒販組合では、加盟する294店舗のうち21店舗が回収を行っています。組合では地域ごとに目標店数を割り当て、最終的には市内のどの地域に住んでいる方でも身近に酒パックを持っていける場所ができるよう、100店舗の参加を目指しています。



静岡小売酒販組合の望月昭男理事長のお店にも酒パック回収ボックスが設置されています。ボックスの上部には、「酒パックは洗って開いて乾かして出してね。」と呼びかけるオリジナルのチラシを掲示。



各酒店から酒販組合事務所に集められた酒パック。お店まで持ってきてくださるのは比較的高齢のお客さんが多いそうで、「若い世代にどう協力してもらうかが課題」とのことです。

●大阪府高槻市● (高槻酒類調味食品事業協同組合)

高槻市と
共同で作成
したチラシ

高槻酒類調味食品事業協同組合は、従来から高槻市の委託事業として、ガラスびんの回収を行っており、2005年度はその一環として酒パック及びペットボトルのリサイクルにも取り組むことになったものです。酒パックの回収を呼びかけるチラシも、高槻市と同組合が共同で作成しました。



高槻酒類調味食品事業協同組合の西田直弘理事長。店頭に酒パック回収ボックスを設置しています。「最初のごみを入れられるのではないかと心配したが、実際にやってみるとそんなことはなかった」とのことです。



酒パックとペットボトルの回収を呼びかけるチラシ。高槻市と高槻酒類調味食品事業協同組合が共同で作成し、市民に配布しました。

事例 5

酒販組合が中心となってアルミパックを回収

●兵庫県朝来市・養父市● (南但小売酒販組合)

兵庫県北部の朝来・養父両市の酒店で構成する南但小売酒販組合では、2005年の4月から一部の酒店が「エコ酒屋」としての活動を始め、少しずつ広がって今では13店舗が酒パック回収に取り組んでいます。



先頭立って酒パック回収に取り組む、南但小売酒販組合の和田秀樹専務理事。「酒店はこれまで、儲からないことはしないという風潮が強かったが、これからは売った商品の空き容器を回収するのも仕事という使命感を持つことが必要」と語っています。



2005年12月16日付読売新聞記事
キャンペーンの取り組みを伝える

朝来市もごみ減量・リサイクル促進につながる取り組みとして評価し、キャンペーンのチラシについては市広報の配布ルートを通じて全戸配布しました。組合では、キャンペーンを通じて、より多くの市民が酒パックリサイクルについて知ることができたと一定の評価をしつつ、今後も地道に啓発を続けていく必要があると話しています。

COLUMN

紙パックは森林資源の副産物

アルミパックやアルミなしの紙パックに使われているパルプは、そのほとんどが北米や北欧の針葉樹を原料としています。マツやトウヒ、ツガなどの仲間、広葉樹に比べて繊維が長く強いという特徴があるため、重い液体を入れる容器の素材としては最適です。これらの木が育てられている森林は、50～70年のサイクルで計画的に管理され、伐採時には周辺の自然環境に最大限の配慮をするとともに、伐採後すぐに再植林が行われます。切った木は丸ごとパルプの原料にされるわけではなく、真ん中の部分は木材として製材され、外側の端材の部分や育林の過程で出

る間伐材をチップにして、そこからパルプが作られるのです。その意味では、紙パックは決して森林の減少をもたらすものではなく、逆に再生可能な資源である森林の恵みを最大限に活用した副産物であるということができます。



森と湖に囲まれたフィンランドの紙パック原紙メーカー工場。
(全国牛乳パックの再利用を考える連絡会提供)



●熊本県熊本市● (熊本小売酒販組合)

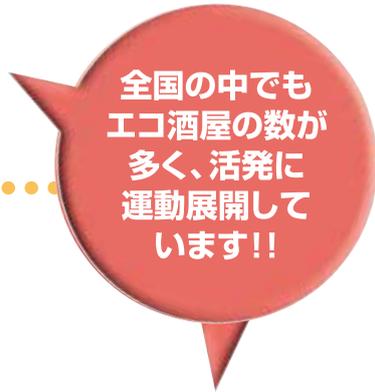
熊本市は、宮崎市と並んで全国で最も「エコ酒屋」の活動が盛んな地域です。今回のキャンペーンには36店舗が参加しました。ただ、費用対効果を考えると、キャンペーンに対する市民の反応は今ひとつ。熊本市では現在、家庭ごみの有料化が検討されており、実施されればごみ減量の観点からアルミパック回収への関心が高まるのではないかと期待しています。

この地域の特徴は、集められた酒パックを「熊本障害者労働センター」に引き渡し、手すきはがきづくりなど障害者の仕事づくりに役立ててもらっていることです。

市の広報でエコ酒屋の一覧を掲載するなど、行政もこの取り組みに側面から支援を行っています。



熊本小売酒販組合の中山紀雄理事長夫妻。中山理事長は、「酒パックリサイクルはいいことだと感じて、実際に行動に移す消費者はまだ少ない。大量生産・大量消費の社会に育ってきた人々は、もったいないという感覚が薄いように思う」と、市民の側の意識改革を大きな課題に挙げています。



●宮崎県● (宮崎小売酒販組合)

宮崎県では、宮崎小売酒販組合のリーダーシップのもと、全国で最も多くのエコ酒屋が登録されています。また、熊本市と同様、宮崎市の広報にエコ酒屋のリストが掲載されるなど、行政もこの取り組みに協力しています。

キャンペーンが始まってから、「酒パックをどこのお店に持っていったらいいの」といった問い合わせが組合に入るようになり、一定の効果を上げています。ただ、「持っていくたくても近くにエコ酒屋がないという地域もあるので、市内全域にエコ酒屋を広げることが課題。そうすれば回収量も増えるし、行政からもより積極的な支援を期待できる」とのことです。



宮崎小売酒販組合の山本正憲専務理事。酒パック回収ボックスには、ごみ減量の観点から回収を呼びかけるピラを貼っています。

事例 6

個々の酒店が自主的にアルミパックを回収

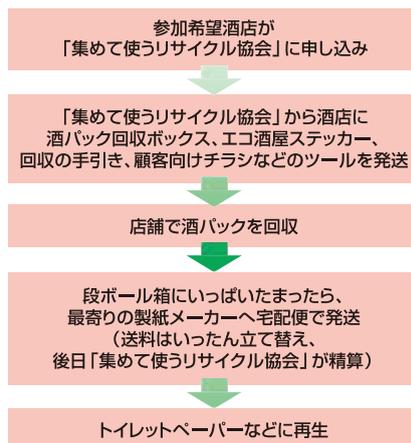
酒店が自主的に酒パックを回収する「エコ酒屋」の取り組みは2001年に始まり、現在では北海道から九州まで全国で178のエコ酒屋が登録されています。

酒パック回収ボックスや消費者に回収を呼びかけるチラシなど必要なツール類はすべて、事務局となる「集めて使うリサイクル協会」が無料で配布します。集まった酒パックを製紙メーカーへ送るときの送料も協会が負担します。酒店側には、経済的な負担はいっさいかからないしくみです。ただ、酒パックをきちんと洗って開いて乾かして持ってきてくれるお客さんはまだ少ないのが現状で、仕事の合間に自分で切り開く作業をしている酒店もあります。また、経済的な負担もない代わりに、この取り組みによる目に見えるメリットはほとんどありません（エコ酒屋登録店は、酒パックなどを原料とする再生紙トイレtpーパーの販売も可能

ですので、その収益はメリットと言えますが)。それでも、エコ酒屋が少しずつ全国に浸透しつつあるのは、「町のリサイクル拠点としての酒店をもう一度消費者にアピールしたい」という強い思いがあるからだと思います。日本酒の一升びんやビールびんはリターナブルびんの代表選手であり、町のお酒屋さんはこれらのリユースシステムを機能させるために不可欠の存在でした。その後酒容器は、びんだけでなくペットボトルや紙パックなどへと多様化していき、空き容器の再資源化に果たす酒店の機能は低下しつつあるように見えました。しかし、京都議定書の発効で温室効果ガスの削減が緊急の課題となり、1人ひとりが循環型社会の形成に向けて何をしなければいけないかを考えるときに来ています。身近なリサイクル拠点としての酒店は、今こそ必要とされているのです。



エコ酒屋によるアルミパック回収のしくみ



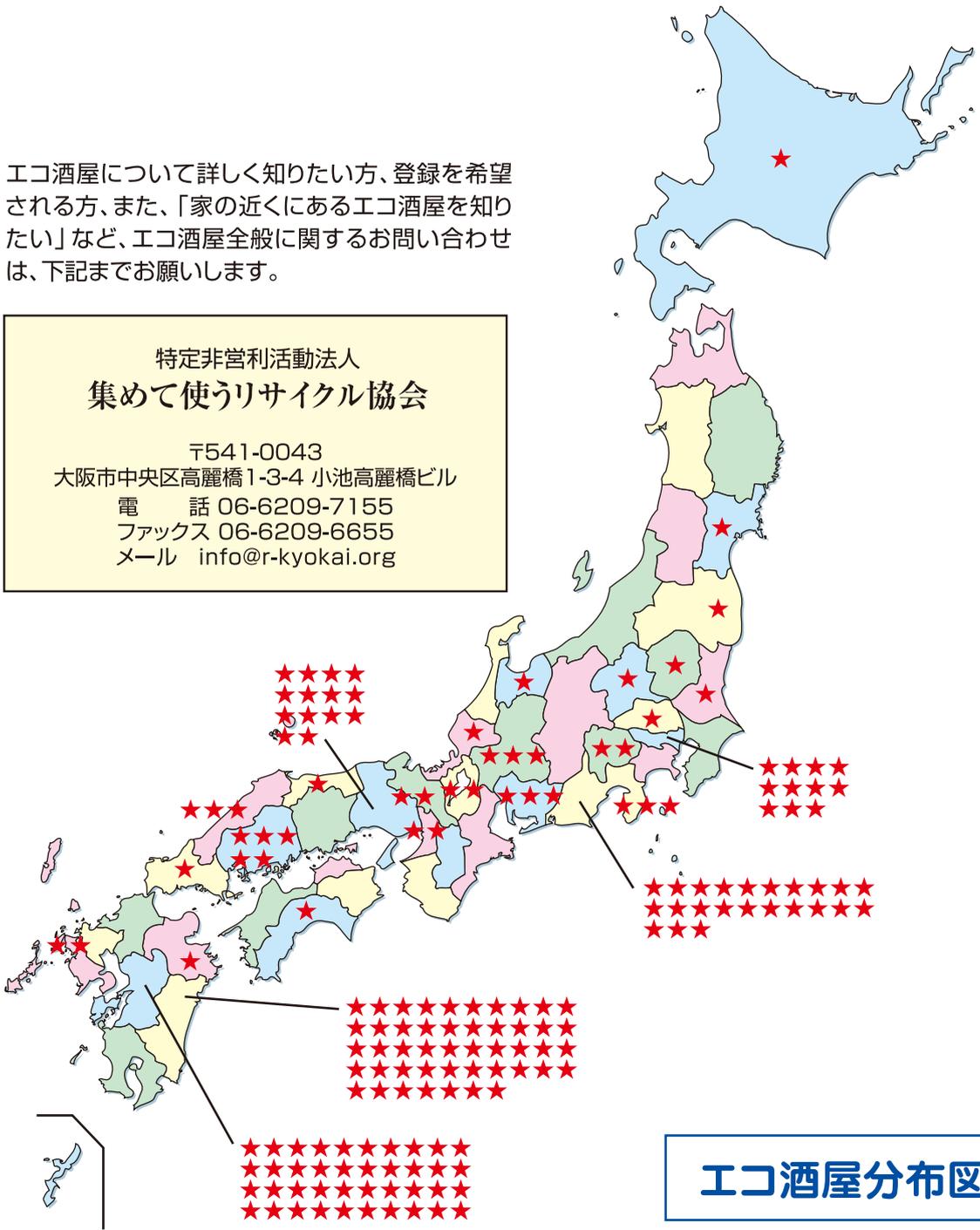


全国に広がる「エコ酒屋」宣言

全国で178のお酒屋さんが「エコ酒屋」としてアルミパック回収に取り組んでいます。(2006年3月末現在)

エコ酒屋について詳しく知りたい方、登録を希望される方、また、「家の近くにあるエコ酒屋を知りたい」など、エコ酒屋全般に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

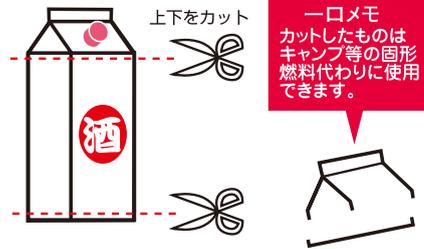
特定非営利活動法人
集めて使うリサイクル協会
 〒541-0043
 大阪市中央区高麗橋 1-3-4 小池高麗橋ビル
 電話 06-6209-7155
 ファックス 06-6209-6655
 メール info@r-kyokai.org



酒パックは 洗って 開いて 乾かして こうやって回収しよう!!

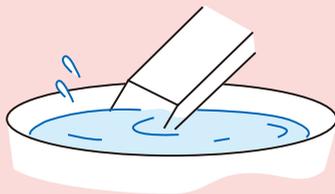
酒パックも牛乳パックと同じく、市民の皆さんが「洗って・開いて・乾かして」という基本ルールを守ることからリサイクルが始まります。

はじめに 酒パックの上下をカットします。酒パックは牛乳パックより紙が厚く丈夫にできているため、切り開くには多少の力が要りますので、カッターやはさみでけがをしないように十分ご注意ください。

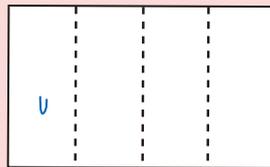


洗って

①酒パックの中身をきれいに洗い、②パックの中央部を切り開く。

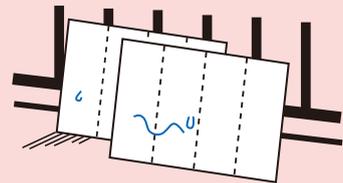


開いて



乾かして

③ベランダやキッチン等風通しのよい日陰で水分が無くなるまで乾かします。



COLUMN

大型のアルミパックは減少傾向

右の表は、アルミパックの容量別・中身別の販売量推移を表したものです。総販売量は、2001年度をピークとしてここ3年は減少傾向にあります。

容量別に見ると、500ミリリットル以上の大型容器の減少が目立ち、500ミリリットル未満の小型容器については、2004年度は若干前年度より増えています。

中身別に見ると、発酵乳等と果汁飲料は2004年度、前年度に比べて増えています。他の飲料については3年連続で減少しています。

(単位:トン)

区 分		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	前年度比	
紙パック販売量		89,570	91,226	83,419	79,342	75,351	-5.0%	
容量別	大型容器(500ml以上)	50,232	50,424	45,906	43,079	38,530	-10.6%	
	小型容器(500ml未満)	39,338	40,792	37,513	36,263	36,821	+1.5%	
中身別	飲用牛乳	大型	2,938	4,730	3,121	2,863	2,530	-11.6%
		小型	9,180	8,419	6,589	6,152	6,115	-0.6%
		計	12,118	13,149	9,710	9,015	8,645	-4.1%
	発酵乳等	大型	869	690	673	824	965	+17.1%
		小型	3,270	3,411	3,396	2,774	2,703	-2.6%
		計	4,139	4,101	4,069	3,598	3,668	+1.9%
果汁飲料	大型	2,999	3,497	3,443	3,329	3,426	+2.9%	
	小型	13,932	13,503	14,116	13,312	14,519	+9.1%	
	計	16,931	17,000	17,559	16,641	17,945	+7.8%	
清涼飲料	大型	14,159	13,887	12,922	11,964	9,705	-18.9%	
	小型	12,588	15,200	13,198	13,543	13,011	-3.9%	
	計	26,747	29,087	26,120	25,507	22,715	-10.9%	
アルコール飲料	大型	29,267	27,630	25,747	24,099	21,905	-9.1%	
	小型	368	259	214	482	474	-1.7%	
	計	29,635	27,889	25,961	24,581	22,379	-9.0%	

(全国牛乳容器環境協議会調べ)

NPO法人 集めて使うリサイクル協会とは

沿革

- 市民団体「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」の呼びかけにより、1993年～1997年の5年間にわたって市民・自治体・事業者等の連携によって行われた「再生紙普及キャンペーン～集めて使うリサイクル」を基盤として、1998年に設立されました。
- 文字どおり、資源を集めるだけでなく、その再生商品をきちんと利用することでリサイクルの輪を完結させ、循環型社会の構築に貢献することを目標としています。
- 2004年3月、特定非営利活動法人の認証を取得しました。

主な事業

アルミ付き飲料用紙容器リサイクルプロジェクト (1999年度～継続中)

酒販店を回収拠点とするリサイクルシステムを構築しています。

アルミプロジェクト



その他紙製容器包装リサイクルに関する自治体等調査 (1999年度～2001年度)

容器包装リサイクル法運用の実態を調査・検証しました。

福祉作業所による地域循環型の古紙リサイクルシステム 「リサイクルロンド」の各地でのシステムづくりと支援活動

牛乳パックリサイクルを通じて障害者の仕事づくり、経済的自立を支援しています。

牛乳パック再利用マーク(パックマーク)の認定事業

牛乳パック再利用マークは、1993年、牛乳パックリサイクル運動の過程で、「牛乳パックを集めるだけでなく再生商品をもっと使うことが必要」との認識が高まり、「分かりやすいお買い物の目印を作ろう」という市民の声によって誕生しました。現在、トイレトペーパー、ティッシュペーパー、キッチンタオル、紙ひも、紙コップ、紙皿、紙トレイ、はがき、名刺、フェイルなどさまざまな製品にこのマークが付けられており、牛乳パックの再生用途はどんどん広がっています。



牛乳パック再利用マーク
(パックマーク)

(アルミ付き飲料用紙容器)

アルミパック リサイクル事例集

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人 **集めて使うリサイクル協会**

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル
TEL.06-6209-7155 FAX.06-6209-6685

- ホームページ → <http://www.r-kyokai.org/>
- E-mail → info@r-kyokai.org

※このパンフレットは独立行政法人環境再生保全機構の2005年度地球環境基金助成事業によって作成したものです。